

ポットラック新聞

the Spring

Vol.
15

特集
港まちな
かわいいを
探して



港まちに滞在制作したアーティスト山下拓也さんは、展示会場の壁を彫って版画の技法で刷ったポスターをまちのお店や壁に展示しました。昨年の11月にリニューアルした「丸三本店」には、今でもそのポスターが大切に飾られています。店先で買える揚げ物も充実した港まちのお肉屋さん。ぜひ訪ねてみて。

Find Kawaii

名古屋の港まちには、かつて力自慢の荷役さんたちが大勢働いていた頃の荒々しい印象を持っている人もいかもしれません。そんな港まちで「かわいい」を探してみることになったのは、商店街で長くお店を続けている人がふとつぶやいた「港にも、もっとかわいいものが増えるといいのに」というひとことがきっかけでした。港まちでのかわいいもの探し、確かになかなか難しそう…そこで、去年の夏から港まちづくり協議会で働き始めたスタッフの倉田果奈さんと、カメラを片手に海からの風がまだまだ冷たい港まちに出かけました。



3



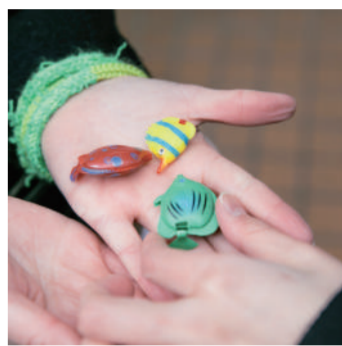
2



1



4*



*



6



*



*



*

港まちなのかわいいを探して

文・谷亜由子
撮影・三浦知也
倉田果奈



*



*



*



*



5



*

倉田果奈が見つけた港のかわいい!

1. 季節ごとに種類が変わる桔梗園さんの干菓子。夏のスイーツもかわいかった〜。
2. 港まちな喫茶店やスナックなど、まちの人にももらったマッチコレクション。デザインがさまざま見て飽きない。
3. 築地口駅を出ると足元で迎えてくれるセーラーくんにはっこり。
4. 珈琲家七番街はここだけ時が止まっているみたい。
5. 港まちなに残る喫茶店のコーヒーカップコレクション。
6. 珈琲アラモ跡。前を通るたび、入ってみたかったなあと思いを馳せる、そんなお店が港まちなにはいっぱい。
7. 道路沿いに突如現れるメルヘンな世界! いわば植木鉢スモールワールド。置き方にもストーリーを感じる…。



*



7

倉田果奈 / 大学2年の頃からカメラを始め、まちづくり協議会で働き始めた昨年7月からフォトグラファーとしての活動もスタート。フィルム写真が好き。

何かを「かわいい」と表現したり愛おしく思う感覚はとも曖昧で、何に対してそう感じるのかも人それぞれ。ただ、心を許し、親しみや愛情を持って接することがなければ生まれぬ感情であることは間違いないさそうです。興味を持って、深く知って、心を交わし、愛になる。そんなふうに分の立ち位置やまなざし、心のありかによって、もの見え方はその時々で変わります。港まちな「かわいい」探しはまちへの愛着の度合いを量る作業だったのかもかもしれません。

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」

「実は港には来たことがなくて、やっぱり初めは怖いところかなと思っていました。まち協での仕事に興味があったので、実は以前、一人で来てみたことがあったんです。その時はすれ違う人と目を合わさないように下を向いて歩いていて、まちを見る余裕なんてなかったし…」

——いまは違う?

「スタッフになって毎日通うようになると、まちにはかわいいおばあちゃんがいっぱいいるんだなと思ったり、近所の喫茶店のロゴが入ったコーヒーカップやマッチまでわい見えたり。見え方が全然変わってきたんです。」

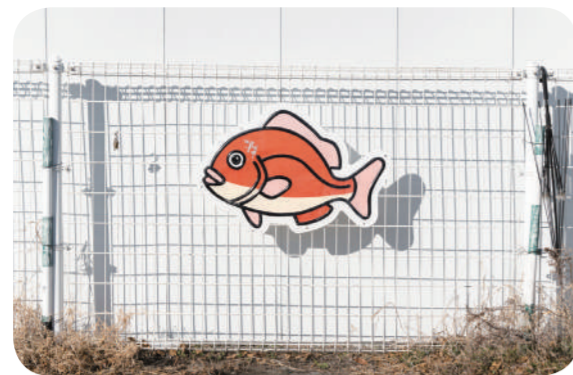
——いまここから見える港の景色もさっきまで下で見ていたものと同じはずなのに、視線が変わっただけで急にかいしく見えるよね。

「不思議ですね。まちの印象や感じ方が変化したのも、自分の立場やまちとの関係が少しずつ変わって、前よりもちゃんと向き合えるようになったらこういうのかもかもしれないな。」



ドクターゼロ

公園の中にある足つぼマッサージの道具。問答無用でかわいい。ここをおばあちゃんたちが輪になって歩いている光景を想像したらもう(笑)。これは…ゼロの形に見えるから、老いをリセットする「ドクターゼロ」だ！若返りの円環。そしてシンプルに色がいい！



きずおでこタイ

おでこに傷がついてるってことで、ただの図像にストーリーが加味される。何か大きなひと仕事を終えて帰ってきたような感じ。他より経験値が高いというか。時間の蓄積が見えるのが面白いよね。ベテランさんみたいいな。ほら、「よう…来たな…(洗い声)」ってしゃべり出しそう(笑)。



出番を待つキャラクターたち

キャラクターって人格があるから感情移入して見れるんですよね。それに布がかぶられていて、でも、電源が繋がれたままで中からは声やメロディーが聞こえるというのが人生を感じる。リストラの厳しさみたいな。社会の厳しさとフォルムのかわいさとのギャップ? 「ギャップ萌え」ですね！



囚われた海賊

シートレインランドのアトラクション入り口で見つけた海賊。ここに遊びに来てる人で、このキャラクターをちゃんと見る人って誰もいないんじゃないかな。新聞に載ったよ、ってこの海賊に見せてあげたら喜ぶんじゃないかなあ。



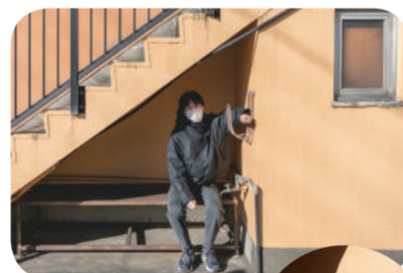
ゆるやかなカーブ

セクシーだったらもっとこうグッとスピード感があるけど、…これはゆるやかなで成熟してないというか…かわいらしさとどまってる感じがしますね(何言ってるんだ)。



まが玉ペンギんいす君

うん、これはかわいい。てか、これなんすかね? ペンギン? 正面がわかんないけど、これって座れちゃいますね。すげえな。



腕置き場

これって、採血するときの腕置き場じゃない? と思った下に蛇口…あ、ホースかけ!



オムライス(?)

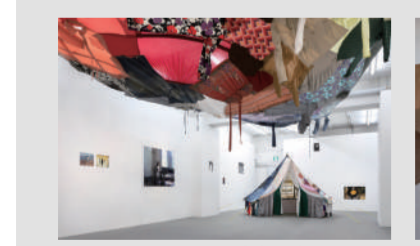
ここにお皿があって、誰かが食べてしまったんじゃないかな。左上のはバセリ? 人の気配を感じてしまうものをかわいいって思うのかも。



展示紹介

Domani plus @ 愛知 「まなざしのありか」

2022年1月18日(火) - 3月12日(土) 港まちポットラックビル 3F: Exhibition Space、旧・名古屋税関港寮



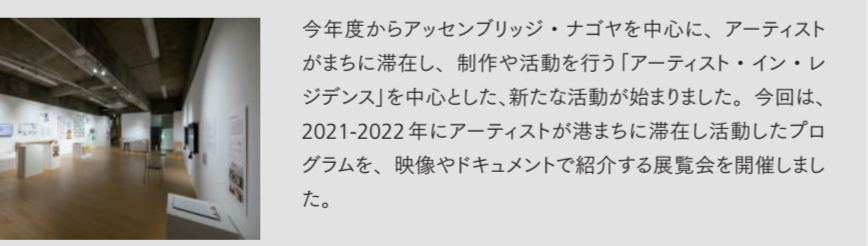
文化庁新進芸術家海外研修制度の成果発表「Domani」展。今年度は全国5会場で開催し、港まち会場では『家族』『記憶、時間』をキーワードに、長島有里枝さんと古橋まどかさんが展示を行いました。フェミニズム的視座から制作をしてきた長島さんは、自身の母とパートナーの母とともに制作したタープとテント、その制作過程で撮影した写真で会場を構成。古橋さんはコロナ禍で経験した母の死をきっかけに始めた庭作業から発想した新作を制作。港まちを拠点に滞在制作をしながら、藤前干湯や瀬戸にも通い、会場全体を使ったインスタレーション作品になりました。



今年度からアッセンブリッジ・ナゴヤを中心に、アーティストがまちに滞在し、制作や活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」を中心とした、新たな活動が始まりました。今回は、2021-2022年にアーティストが港まちに滞在し活動したプログラムを、映像やドキュメントで紹介する展覧会を開催しました。

ドキュメント展 MUSIC/ART/MINATOMACHI 港まちで生まれる音楽とアート 2021-2022

2022年1月25日(火) - 2022年3月12日(土) 港まちポットラックビル 2F: Project Space、スーパーギャラリー



港まち AIR エクステンジ 2021

マレーシア・ペナン在住のアーティスト、フー・ファンチョンさんを招き、名古屋在住の山下拓也さんとともにオンラインでのレジデンスプロジェクトを実施。ペナンで中古品として販売されている日本のマスコットキャラクターの里帰りや、金銭踊りをもとに様々な要素を付与した新しいダンスのアイデアなど、ペナン≒名古屋の交換プロジェクトの成果を展示しました。



1 港まち手芸部のおしゃれ番長 愛子さん



ん? かわいい特集!? それならもっとシェアしてくるんだって~(笑)。ブランドだと、gomme(ゴム)とかYohji Yamamoto(ヨウジヤマモト)が好きです。資生堂でビューティーコンサルタントをしたから、「お客さまを美しくする」のが私の仕事だったの。なので、洋服やバック…ファッション全般好きです。今日の帽子は、手芸部で作った手づくり。洋服も好きだけど、おいしいご飯も大好き。今度一緒にいきましょうね! (愛子さん: 港まち手芸部員)



2 港まちの社交場「NUCO」でも提供もえかちゃんの手づくりパン

パンづくりのきっかけは、断捨離モードの母が「パン好きやろ?」ってホームベーカリーをくれたことから。今はもう、手でこねていろいろ作ってます。お気に入りにはカレーパンですけど、かわいかったのは、サンタさんのパン。メロンパンの生地をコーティングして、コルネをツリーにしたり。あんバターですか? はい、もちろん小豆から炊いたあんですよ。(もえかちゃん: NUCOメンバー)



3 「ちょっと! ちょっと!」の娘さんを遊ばせるコーナー

居酒屋「ちょっと! ちょっと!」の娘ちゃんかわいいです。先日、この写真撮らせてもらったんですけど、店主でパパの令さんが、「かわい過ぎて誘拐されるだろ?」って(笑)。店内には、令さんDIYの令音ちゃんを遊ばせるコーナーがあって、常連さんが面倒みたり、自分の子供も連れてきて楽しんでる。そういうのいいですよ。僕が撮ったの見て「入園式も撮りに来て!」って(笑)。令さんが、かわいいですよ。(安田さん: カメラ好きのウェブエンジニア)

ポットラックビル 受付"かわいい"日記

1月△日 ニットアーティストのオリナさんがご来館。きれいな毛糸で編まれたマスクストラップを着けていらした。「ふむ、かわいいな…」と思いつつ後日、NUCOで売られていた毛糸マスクストラップを購入。色は光沢のある薄紫…なんか青龍みたいていい感じ。 1月○日 ちょっと前までここで働いていた児玉さんが、双子の妹とその娘さん、そしてお母さんを連れてひょっこりやってきた。なんでも桔梗園さんから引き取る予定の猫兄弟と、顔合わせに来たと言う。いや、そんなことより児玉さんって双子だったのか…と、内心びっくりしているところに桔梗園のお母さん登場。ペットキャリーの中から黒ブチの兄弟猫2匹がそろりと顔を出した。へー、かわいいじゃないの~(猫アレルギーなので近寄れない)。まごまごする双子みたいな猫たち。そっくりな猫たちとそっくりな児玉さんたちが居合わせた不思議な光景。思わずふふっと笑ってしまった。 1月□日 地元の三姉妹が友達を連れて遊びにきた。すぐ

港まちづくり協議会の拠点、港まちポットラックビルは、展示会場観光案内、地元集いの場と様々な顔を持ったため、いろんな「かわいい」もやって来る。受付で働く徳丸さんが記した日記をおすそ分け。



れ馴れしいかなとか、ちょっと怖いかなとか考えて、結局言わないことが多い。そんなことを考えていると、「コラください」とお兄さん。そこからちょっとした世間話が始まった。が、お互いに相手の出方を伺いつつ話すタイプだったので、微妙に盛り上がりません。結局、「俺、調子狂うキャラかもしんないですけど…」と去り際にしておいてみせるお兄さんはかわいい…というか優しい笑顔をしていた。大丈夫、これが僕の本調子です。また、お話ししよう!

2月○日 海辺で(たぶん)鶺鴒を目撃。鳥は遠巻きだと可愛いけど、間近で見るとわりと怖い。野生の目をしてるから!

2月□日 お昼休憩に近くの喫茶店へ。コーヒーの付け合わせでバターピーが出される。語呂がかわいくて「…バターピー」と呟く。「柿ピー」よりもかわいい。「チョコレート」よりも「チロルチョコ」の方がかわいい。

まちの人のリコメンド 港まちの「かわいい」3選!

港まちのことならまちの人に聞いてみよう。 港まちの「かわいい」あれこれの話。

港まぢの おぎのわかな日記

文・古橋敬一 イラスト・遠山敦



第14回 プリンと味噌なす

——港まぢの街中華「二十番」 part2

前回に引き続き、港まぢになくはならない街中華「二十番」のパパさんとママさんのお話です。パパのプリンが絶品だったというママの吹きかけに始まった居酒屋美菜での談義は、初めて聞く話ばかりなのに、どこか懐かしい風景が浮かんでくるではありませんか。さて、今回はどんなお話が？！

真夜中の修行

美菜…知らないの？パパの味噌なす！食べたことないでしょ？
ママ…「盛り合わせ」のな。
パパ…今はもうやれんよ、手が震えちゃうもん。
——二十番の「盛り合わせ定食」と言えば、港まぢ大盛りシリーズの中でも最高峰の満足度を誇る定番。初めて注文する人は皿に盛り合わせたおかずの量を丸くして「これ一人前ですか？」とたじろぐ。また、なかでも「味噌なす」の一品は群を抜いてファンが多い。私もその一人だ。思い浮かべただけで、唾を飲み込んでしまうがグツと堪えて話を戻した。
古橋…え、ちょっとその前に、もう少しいい？お二人は、ツツキで出会うって結婚されたんですね。でもパパは洋食で二十番は中華でしょ？港まぢにはなんか縁があったんですか？
ママ…中華はね、叔父さんが東新町（中区・東区にまたがる名古屋の代表的な歓楽街）に二十番という中華屋をやったの。
古橋…え？港じゃない！二十番は

東新町にあったんだ。

ママ… やったというか、買ったんだわ。屋号とツツキさんも…
パパ… そうそう、ツツキの専務だった叔父さんがね。
ママ… 東新町は今の東急（ホテル）の裏の女子大小路な。今は、焼き鳥やなしに「手羽先の山ちゃん」か？それに変わってるな。そこに二十番ってあったんだよ。もう、16、7年前になるかなあ。
パパ… そんなになるかねえ。
——その頃ツツキには、別の跡継ぎが入ることが決まっていた。結婚したお二人は独立を考えるようになっていた。
ママ… ずっと居ても仕方ないじゃんね。結婚して身内になると、なかでか手伝わされる。レジから皿洗いから全部やらにやいかんでしょう。店がもらえるワケじゃなし、だんだんとしんどくなるよなえ。
パパ… で、そんならって僕の行つた床屋さんの伝手で今の場所を紹介してもらったの。
ママ… パパの飲み友達だわ。その姉さんが港の「ローズバー」をたたむから、そこを改装して誰かに貸したいという話でね…。
古橋… ローズバー？あの外人バーで

すか？聞いたことあります！
——港まぢに外国人船員を相手にしたバーが数多くあったという話は、まぢの人々の語種の一つになっていて、私も数々の逸話を耳にしてきた。
ママ… ローズバーのママも苦労した人でね、いい人だったんだよ。本当、世話になったの。その人から、今の場所を借りたんだわ。
古橋… へー、そうだったんですか。全然知らなかった。でも、洋食から中華って、結構な転職ですよな。
ママ… うん、ほんでもね。専務の叔父さんが、あの当時に、「これからは洋食じゃなくて中華だ」と言わしたの。パパ… 中華はね、ほかる（捨てる）（ソーク）に使ったりはするけど、いろんな仕込みとかも大変だし、捨てちゃう部分も多いしね。
ママ… オープンとかの器具もいるし、パパの準備も大変だもん。
古橋… へー、なるほど！確かに。パパ… そんなで、僕ら二人で東新町に覚えに行つたの。
古橋… 見習いに行つたことですか？
ママ… うん。そうだよ。3ヶ月くらい。二人で味を覚えてきてね。
古橋… え！ たつた3ヶ月だけ？
パパ… 鍋は振れるし、味もみれたからね。
古橋… それでお店始めちゃったんですか…（すげー！）
ママ… 私らその叔父さんと一緒に大門の大宮町に住んたらからさあ。そこのおお婆さんに、子どもの寝かしつけ頼んで、11時過ぎから覚えに行つたの。
古橋… あ、そっか。もう照さん（長男の照幸さん、港まぢでもうひとつ人気店「中国食房「漂」を経営）も生まれてたんだ。ん？でも、11時って夜中ですよ！（ヤバすぎる！）
ママ… 東新町は3時までやってたもんで。
古橋… いやいや11時から3時までって、真夜中ですよ！
ママ… そんなで明るる日の7時には話に行かんなんもんでさ。
パパ… 僕はポイラー炊かかやならんしね（笑）。
古橋… それ… 大変じゃん！
パパ… そんなで寝れなしの（笑）。
ママ… 照幸が夜泣きするさあ、おん（おんぶ）して外に出るでしょう。そうすると、大門の店の前の停留所まで歩いて。そこに屋台を出しておじさんとお婆さんと、よう一緒にしゃべったなあ…。
古橋… お店が3時に終わって、家に帰って…それから子守りして…それも朝ですよな？
ママ… 夜通しだよなえ（笑）。
パパ… 本当にもう、そんなで今でも寝んでもやれるもん（笑）。
ママ… そうそう、寝んでも平気だもん。ウチの子たちがみんなそういうふうにおもちゃった。
一同… 笑

美菜… そんなでかあ！私が店を終わって、2階で眠たいなあと思つて顔パツクしとると、トントントンって勝手口叩くのが聞こえてくるの（笑）。「お母さん！なんかできたで、いりやあよ！」って（夜食のお誘い）。みんな元気よかつたなあ。
古橋… 凄いですね…（近所ぐるみで寝ない）。
美菜… 布団を半分におった部屋にさあ、私らみんなでおしかけたよな。
ママ… なんか飲みながら食べながらさあ、よう集まったなあ。六畳間のところでみんな生活しとったもんなあ、川の字で枕並べて10年はやつた

もん。住み込みで働いてくれた兄弟もおつたし、このみどり（店舗裏手の住宅兼社員寮）には、ようけ（たくさん）人がおつたんだよ。

お客さんに助けられて

——大変なエピソードなのに笑つてしまふ。いや笑うしかないのか、いざいざ、お二人は、どこ吹く風で意にも介さない。しかし、開業当時には苦しい日々もあったようだよ。
ママ… 最初は本当に売れなかったよ。怖いぐらいに…1年以上、2年ぐらいまでは、弟たちにも給料は待ってもらわにやなかったし…。
パパ… 米は田舎からもつてやしたしね。
古橋… ああ…。オープンは何年だったんですか？
パパ… 46年の5月かな。
古橋… ちょうど港で働く人たちが金城ふ頭に移り始める頃ですね。
ママ… そんなで、まだまだ賑やかだったよ。外人もいっぱいだったし。ほら、水上署の真ん前、あつたがまだ海で釣りができたんだもん、ボラやなんかみんなのんびりやつたよ。

——昭和46年当時の港まぢは、街の内燃機関だった港湾の仕事場が、新設された金城ふ頭へと移転していく激動期の始まり頃。しかし、日常の風景としては、やはり依然として穏やかなに見えた部分があったのかも知れない。ガーデンふ頭も水族館もなく、3つのふ頭があった港湾エリアには、水上警察署を始めとした官公庁が多数あり、そこへ出前を届ける機会も多かったようだよ。
パパ… そうそう、懐かしいねー。すいません、もう一杯。

古橋… わ！じゃ僕はなんか食べよかなあ。
パパ… こっちに中華飯つ！
美菜… はーい！中華飯二丁！明日まで待つてね（笑）。
古橋… いやいや。今日食べれるのにして下さいよ。

一同… 笑
古橋… そっかあ、最初は儲からなくて、大変だったんですね。
ママ… うん、料理覚えるよりもこちでお客さんつかむ方が大変だったよ。港の間間はキツイですよ。目と目が合うだけで喧嘩するお客さんがおるしよ。

古橋… ひゃー。
ママ… 最初は、水上署の防犯の人とか仲良しになつて、そういう人らにお願いして、広めてもらつて…。
パパ… 警察の人にはようしてもらつたね。助けられる人が多かったよ。
ママ… お客さんで来るでしょ。そうすると、休みに飲みに行つて誘うの。ほんでも、あの頃は毎週は休んでなかったし、お金もなかったからウチに呼んでね。
古橋… お店に！なんか「行きつけのお店の休日」って特別感ありますね。
ママ… なんか相談したし、余分にあると食べてもらつたりね。わからんメニューでもお客さんに頼まれれば、作つてみて味を見てもらつて…。そうすると仲良くなる、お客さんも気良く使つてくれるようになるじゃん。ほんで（だから）そういう人らに助けってもらつたんだよな。
パパ… 結局、10年で借金返して、家も建てたんだから、凄かったよな。休みなんか無しでよう働いたけど、そんだけ儲けられたで、時代も良かったんだね。

11軒あった二十番の慰安旅行

パパ… 旅行にもよう行きよつたね。
ママ… ウチの子も美菜の子もキャンプやらによう連れてつてもらつたね。しばらくしてからは系列店の従業員やお客さんともよう旅行したしね。
古橋… 系列店ですか？
パパ… 一番多い時はね、えつと7、いや11軒あったの（笑）。
古橋… 11軒も！
ママ… 女子大小路でしよ、港でしよ、猪子石に桜山と志賀本通に、ほれから守山、本陣、甚目寺、あとは大治に七宝か、西尾だけはまだやつとるね。
古橋… 二十番がそんなにあつたんだ。ママ… ほれからそういう関係の兄弟が、半田とか安城におつて、みんな旅行に行きよつた。

パパ… 最初の頃は、コックとかお店の従業員だけで観光バス三台になったかなあ。ほんでも、みんなめちや飲むんだわ、半端ない（笑）。
ママ… コック上りの子たちが多かったから、行つた先のホテルや旅館にみんな知り合いがおるんだね。そうすると料理が余分につ出てくるじゃん。そういうのが楽しかった。ほんでもみんな閉めちやつて、余つたマッチが今、店に来とるわ。それに系列店が載つとるわ。
パパ… 楽しかったよ。バス中でトラペット吹いたりね…。
古橋… え？バスの中で！
パパ… キャバレーで働いたつた子で、最初はお客さんだったけど、ウチを手伝うようになって、いろんな子があつたけど、嫌な子は一人もおらんかった。ママ… 最初はね、女の子は旅行へ行けんかったの。他の店は夫婦でやつと

たし、女の子使つたつたのはウチだけだったもんで、そんで私が一人で、その子らを連れて、電車やタクシー乗り継いで下田（温泉）に出かけたりしたんだけど…。二重にお金もかかるし、一緒に行かまいつて、「奥さんたちも働いとるんだから、男だけだ楽しんじゃダメだわ」つてね。「（お金は）みんなで少しずつ貯めればいいし、バス一台借りたつて人数集まるはずだわ」つて声かけて…。私、堪えとれんもんでさあ（笑）。
古橋… 言つちゃうんだ（笑）。
ママ… 片山津（温泉）かなんかいった時でもさあ、旅館で女中さんが男衆を誘うじやあ。そういう（ストリップやキャバレー）遊びにね。そうすると「行く行く、みんな着いて行く」。男の人、行きたくないないないんだよ」つて、女も一緒に旅行つちゃうの。
古橋… すげえ。

ママ… あれは、片山津だったか山代（温泉）だったか行つた時に、そのの築地口にあつたストリップ劇場の女の子に会つて「あれ？二十番のママさんじゃん」つて（笑）。あの職業は、転々と同業を移動すんだとさ。そんで旅館の女中さんは、そこへ送り込むとマージンもらえるんだね。そんで一生懸命勧誘するんだわね。
古橋… そういう社会勉強もして（笑）。
パパ… ほうだね。だいたい続いたもんね。みんな歌もうまいし、踊りもするし。本当にぎやうだったよ。いろんなところへみんなで行つたよな。
美菜… みなと祭の後も「海だ！」つて内海に行つたりしたね。
古橋… えー、みなと祭の後に？ど

パパの味

古橋… 二十番のヒットメニューってやっぱり…。
パパ… 「盛り合わせ」は名物だね。一番人気があるかなあ。
古橋… 最初は、お客さんに頼まれたんだったつけ？
ママ… 昼にはランチがあるで、夜もなにかそういうのをやってよつて話で、ほんなら定食しよかって本島さんが言つたんだよな。
パパ… うん。
ママ… パパは、最初から中華専門のチーフを雇つたつたの。最初が大戸さんで、本島さんは二番目の人だな。
古橋… へー。海老天があつて、焼売があつて、唐揚げとつていう構成は昔から緒だったの？
パパ… 前は、中華飯の旨煮をつけとつたけど、それが味噌なすに変わったね。
古橋… だ！味噌なす！あれ大好き。ご飯大盛りなのにすくなくなくなっちゃいますもん。
パパ… 大丈夫だよ。ご飯はどんだけでも無料（ただ）だから、お金はいらないよ（笑）。
一同… 笑
古橋… 全然儲からんぞね（笑）。
ママ… パパの基準は、お客さんが喜んでもらえるようにだもんね。ほやら（そうでしょ）？
パパ…（深く頷きながら）そうです。美菜… パパの味噌なすは美味しかったねー、優しい味…今で思うと。古橋… へー。優しい味かあ。



かわいと言え、あきほ@秋田大会館のツイッター。毎朝の「おはようございもふ」が癒しです。プーチン大統領の秋田犬「ゆめ」元氣かなあ(小) / X、M、E、S、I、Sは「文字違い。あーハイ行きたい。この際ハイでなくてもかわいい生ビールが飲めるところなら何処でも。コロナ終われ(三) / 取材中「私いい大人だけと世間擦れしてないところが子供のようにかわいいと思うの」と眩々とカメラの三浦さんに聞こえないフリされました(谷)



写真：くらら

ファリアレストラン

名古屋市港区名港2-6-12
11:00 ~ 15:00、17:00 ~ 22:30 / 不定休

港まち限定で毎月発行している「ポットラック新聞かわら版」のライターが港まちのオススメ店を全国のみなさんにご紹介します。第4回の担当は、くららさんです。

港まちで旅気分を。
バスマティ米という、高級米を使った料理が食べたくなって、わたしはこの店を訪れた。ただ、外から店内は見えず、初めてでは入りにくいという印象もあった。思い切って入ると、良い意味で混沌とした雰囲気が出て、お店の方が笑顔で迎えてくれた。港まちにいることを忘れ、まるで旅に出ているような気分。入ってよかった。

おすすめメニューは日替わりで、この日はピリヤニ・マトンシチュー・マトンキーマ。迷いに迷って予定通りピリヤニを注文。セットのサラダを食べると、お目当ての料理が運ばれてきた。すごくさまいだく。「ああこのスパイスの香り！」バックパッカーだったわたしは世界の味が恋しくて仕方ない。美味しい。それ以外に表しようがない。ヨーグルトのソース、ライタをかけて、さらに絶品。美味しくてあたたかい余韻に浸りながらお店を後にした。

かわら版的 港のお店紹介

港まち限定で毎月発行している「ポットラック新聞かわら版」のライターが港まちのオススメ店を全国のみなさんにご紹介します。第4回の担当は、くららさんです。



イラスト：チンタオ

ライター：くらら
3月のかわら版取材に飛び入り参加。まち協のイベントに参加して以来、2回目の港まち。バックパッカー経験者で、これまでに世界18ヶ国を旅した。カメラ、料理、名古屋が好き。

みよとまちブルース

© 宇佐江みつこ



古橋まどかさん、村山、渡る

井手健介「港まちで再会する時、時を止めてほしい」



マンガ/宇佐江みつこ

名古屋市在住の漫画家・イラストレーター。岐阜県美術館のSNSで4コマ漫画『ミュージアムの女』を連載中。

行って来た場所

この日は『DOMANI plus @愛知「まなざしのありか」』が開催中。古橋まどかさんと長島有里枝さんの展示を見た後、港まちで生まれる音楽とアートがテーマの「ドキュメント展」も。やっぱり食欲が抑えきれず、のだやに寄り道。帰りに丸三の揚げ物も!

まちかど 相談室

今回の答える人

令さん/居酒屋ちよっと!ちよっと!大将。P4にも登場。32歳で独立して鮮魚店を経営。後に好きが講じてDIYで居酒屋を開いてしまった。音楽好き、格闘技 Lover。

【今回の相談ごと】
夫の転勤で引っ越してきたばかりです。慣れないこの街で、どうやって友達がつくれるでしょうか?
(質問者…料理好き25歳女性)

【回答】 え? 俺に聞くの? んー、若い人はなかなか真似できんかもしれんけど、ほらその辺の年寄りにはさあ、割と気軽に周囲に話しかけてるじゃないかね。あれはさあ本能的なもので、ボケないための。誰だって一人じゃ生きていけないってことだよ。結局のところ。話しかけるのは大変でも、笑顔で挨拶とかし続けるのは大事だよ。うちの子だって、あややってみんなにかわいがられとる、なんでもできるのね。ニコニコしただけで可愛がって、助けてくれるんだよね、みんなが。実際のところ、付き合いが浅いよ、悪い人なんてそんなないから大丈夫だよ。自分から閉ざさないことかな。なんて他人のことまで気軽に言えるわな(笑)。まあ、でも良かったらウチに飲みに来てよ。

※ふとした悩みがあれば、港まちづくり協議会までお寄せください。メールアドレスは↓に。

ポットラック新聞 -the Spring- vol.15

2022年3月31日発行

企画 港まちづくり協議会
編集 竹内厚 (Re:S)
デザイン 小島邦康 (Artical inc.)
進行 倉田果奈 (港まちづくり協議会)
表紙撮影 三浦知也
企画協力 Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya] (青田真也、吉田有里)
印刷 東海共同印刷
発行 港まちづくり協議会
〒455-0037 名古屋市港区名港1丁目19番23号
Minatomachi POTLUCK BUILDING
TEL | 052-654-8911
MAIL | info@minnatomachi.jp

official Website
www.minnatomachi.jp

official Facebook
www.facebook.com/nagoyano.minnatomachi

かわら版 Instagram ID
potluck.paper2017

港まちづくり協議会
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN

Minatomachi
POTLUCK BUILDING

港まちごはん!

十五杯目



FATさん



スパゲティは のどごしだったのか?!

FAT

地下鉄名古屋港駅を上がってすぐの港まちで人馴染みの喫茶店。オリジナルソースをかけるピラフも人気。



名古屋市港区入船2-2-11
営業時間：7~19:00 水曜定休

コロナ禍もあり、しばらく休業中だったFATさんが復活したという街の噂を聞きつけて、スタッフみんなで行ってきました。「港まちごはん」では、家ごはんではなくお店が登場するのは今回が初めて。「ナオさん! 今日は何玉いける?」「どんだけでもいいよ〜」と謎の会話を、マスターとまち協の古橋さん。ふと壁に目をやると「とんスパ大盛り(2倍)ん? ということは…。」「じゃあ、5倍行きますか!」「あいよ〜」…そして登場したのは、お盆かよ! 巨大なとんスパがあー。きゃー(笑)。「お! 相変わらず、喉越しいいね〜」あれ? スパゲティって喉越し? 気になる方は、ぜひご賞味下さい!

港まちの暮らしの中にある「美味しい!」を探求する「港まちごはん」。今回は、港まちでリニューアルオープンした「COFFEE HOUSE FAT」のナオさんのとんスパです。メガ盛りを目の前にして、港まち大盛りMAPをつくらう!と、スタッフ一同で大盛り上がり。必殺裏メニューをご紹介します!

「とんスパ」とは?

かつて港まちにあった懐かしの人気メニュー。「スパゲティの上にとんかつ」が基本。頑張った発表会のご褒美とか、大切なお客さんの接待や商談だとか。特別な日にだけ食べられたという、港まちのとおきの逸品。まちの皆さんの記憶の中にあつた思い出の味を、FATマスターのナオさんが「新しい港まちの名物」として復活させた。

ポイント

ボリュームなとんかつが、とんスパ専用ソースと絡むと、なんともあっさり食べられる。直前に炒められたコシのある太麺がツヤやかで香ばしいのも特徴的。

大盛り

大盛りは麺2倍が基本ですが、ナオさんに頼むと、お好みの量に挑戦できる。

※港まちづくり協議会は、ポットピア名古屋設置に伴い競艇を施行する自治体(蒲郡市など)から名古屋市に交付される「環境整備協力費」を用いたまちづくり事業を、住民と行政との協働により検討・実施しています。※本紙に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製などの行為はご遠慮ください。